



今年、大学を目指す受験生の数と入学定員の数が一致する年だといわれています。大学によっては、

定員以上の学生を入学させますので、定員割れの大学も現れます。短大の4割以上が定員割れといった情報はその厳しい現実を示しています。各大学は生き残りをかけて激しい競争を繰り広げているというのが現在の大学の実情です。

保育関係の学科は学生に人気があり、他の分野に比べて、学生集めにはそれほど心配することがなく、恵まれた分野だと言われてきました。だからでしょうか、最近、東海地区でも子ども学科や現代幼児学科といった名前で保育系学科や学部が創設されてきました。

このことは、しかし、保育系学科も他の分野と同様、厳しい競争に直面しつつあるというのが現実です。

こうした厳しい状況の中であって、本学は何をすればよいのでしょうか。私ども教職員一人一人は、それぞれに与えられた教育や事務業務を改善し、受験生に本学を魅力ある大学として受け入れてもらえる社会環境を整えなくてはなりません。同時に、私どもは、

大学全入時代を迎えて

学長 永見 勇

ある共通の教育姿勢を持ちながら、厳しい局面に対応して行かなくてはならないと思います。

私どもは、他の大学に対抗して、建物を整備したり、様々な情報媒体を通して宣伝するといった財政的余裕はありません。私どもが持っているのは、本学が一〇九年という長き歴史の流れの中で築き上げてきた、保育の世界に

対する豊かな教育と遺産です。この教育と遺産を受け継ぎながら、同時に現在の社会が求めている保育の営みに柔軟に対応できる教育体制を築いていく必要があるということです。本学に入学した学生の大半が「厳しい授業ではあったが、本当によい教育を受けた」といった言葉を残して卒業していきます。こうした学生一人一人が満足し、評価できる教育を引き続き大切にしていこうとこそ、少子化という厳しい社会現象を克服していく基本ではないかと思うのです。

名古屋柳城短期大学は、愚直ともいえる態度で、保育の世界に従事し、保育のプロとして生きていくための基本的な知識と実践を学生に提供してきました。地味ではあるが、丁寧な一人一人の学生に教職員が一丸となって関わっていくならば、社会も受け入れてくれるのではないかと。そんな思いを持ちながら、教育活動に従事している今日この頃です。

退職にあたってのメッセージ

30年間ありがとうございました

飯田 和也 (教授)



30年間という長い間の多くの出会いから「生きる喜び」を与えられ感謝しています。保育が大好きなすばらしい先輩の先生方から保育の基本を学び、キリスト教との出会いから「愛」の大切さを教えられ保育に活かすこともできました。特に、学生からは講義や演習では、聞き上手な態度を学ばせるには、話し手として「愛」が必要という教育の奥の深さを教えられました。一方的に教え込むのではなく「共に育つ」生き方が大切であり、学生も参加して共に考え、悩む姿を通して困難を乗り越える力となる場があることを学んだことでした。

宝物は教え子が保育の場で、子どもたちを愛している姿を見

ることができるとです。日本中を講演しているとき、教え子から声をかけられ、「柳城の生活で保育の基本を勉強し、間は魔物・チャンスは飛び立つ前に捕まえる・アンダンテ・保育の奥の深さを思い出しています。今、子どもといることが幸せです。がんばっています」という姿を見ることが最高の時といえます。現在、中津川で保育者としての初心にもどり、子どもたち一人ひとりの発達をとらえ、

援助のあり方を勉強し、保護者への支援について現場でチェックする仕事を与えられ充実した日々を過ごしています。園長として保育者を育てながら子ども達の発達を見つけたとき「生きるよろこび」を与えられています。また、今までの経験を活かし様々なところで研究会や研修会を通して、「保育の奥の深さ」を味わっています。保育の相談や保護者からの悩みを受けることを通して一人ひとりの発達を大切にしたい保育の基本をまとめながら「子育て支援」について重要なかわりを探っている毎日です。また、今までなかなか卒業生の集まりには時間を割くこと

ができませんでしたが、出席できるようにになり人生を楽しんでいます。柳城での「出会い」を原点にこれからも保育の奥深さを味わい、子どもたちに生きる力を育てることができると思います。これからもどうぞ宜しくお願いします。

就職して1年を振り返って

萩 敦子 (助手)



本学を卒業後、毎日、高齢者施設に入所している利用者さんのために、私には何が出来るだろうと考えていた生活から一転、今は、学生さんのために私には何が出来るだろうと、日々、悩んでいます。慣れないことも多く、失敗したり、他の先生方に御迷惑をおかけして、落ち込むこともありましたが、そんな時は、いつも、学生さんが元気をくれます。一年をふり返ってみても大切なことをたくさん教えても

らった気がします。あらためて「教育」とは「共育」なのだなぁ、と感じています。まだまだ未熟ですが、利用者さんから教わったことを学生さんに伝えながら、「介護」や「保育」について共に学び、共に成長できるよう、頑張ります。

新任教職員紹介

野崎 真琴 (助教)



本年四月より本学の教員として就任致しました。今日、保育や介護に対する社会的な需要が益々高まる中、それらの仕事を担う人材を育成することは大変重要な役割であり、特に伝統的にその役割を果たし続けてきた本学において、その重大な任務に少しでも携わらせて頂けることは、大変に嬉しくもありました。それは、大変に大きな責任を感じずにはおられません。もとより微力ではございますが、本学において目指すところの優秀な人

2007年度 主要行事予定

- 4 / 2 (月) 入学式
- 4 / 26 (木) 27金 合同セミナー (保育科1・2年)
- 5 / 21 (月) 幼稚園教育実習 (保育科2年)
- 6 / 4 (月) 介護実習第一段階
- 6 / 16 (土) 授業公開
- 7 / 21 (土) オープンキャンパス
- 8 / 4 (土) 夏季休暇開始・施設実習 (保育科2年)
- 9 / 8 (土) オープンキャンパス
- 9 / 17 (祝) 介護実習第二段階
- 9 / 17 (祝) 保育科・専攻科保育専攻後期授業開始
- 10 / 3 (水) 創立記念日 (平常授業)
- 11 / 1 (木) 創立記念礼拝
- 11 / 2 (金) 3 (祝) 柳城祭
- 11 / 19 (月) 幼稚園教育実習 (保育科1年)・保育所実習 (保育科2年)
- 12 / 1 (土) 紙芝居フォーラム
- 12 / 12 (水) クリスマスコンサート
- 12 / 19 (水) クリスマス礼拝
- 12 / 22 (土) 冬季休暇開始
- 1 / 7 (月) 授業開始
- 2 / 9 (土) りゅうじょう子どもフェスタ
- 2 / 18 (月) 保育所実習 (保育科1年)
- 2 / 20 (水) 訪問介護実習
- 3 / 14 (金) 終業・卒業・修了礼拝
- 3 / 17 (月) 卒業・修了式

材の育成に貢献できるよう、誠心誠意努力して参る決意です。で、何卒ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

山田 則之 (教務課課長)



私は、平成19年3月に大学を定年退職して、本校に採用をして頂きました。

昭和40年の春に名古屋に就職のため岐阜から出てきて約40年余を、大学生の方達とともに働いてきました。

名古屋の中心から外れた丘陵地にあったキャンパスは、市バスで降り立ったときに伊吹風で砂塵が舞い上がっていました。敷地の中央を市道が通っていて、その砂利道で大学の職員が雨の日には事故に会うこともありま

した。大学は蛸足だった状況から、1キャンパスに集中している過程の終わりがけて、あちこちで校舎を建設中でした。そのため

空き地も多く、昼休みなどはキャンパスの中央にある3面の空き地を奪い合い6試合12チームが競ってソフトボールをおこなっており、それに参加するのが楽しみで、そのために仕事頑張れたようなところがありました。

チームは学生と教員と職員の混成チームで学部・学科毎に纏まっており、きまった対戦相手とのリーグ戦を行いました。場所取りに敗れたときはプールで泳いだりしましたが、午後の勤務時には疲労が襲ってくることもあり

ました。大学生と同じ年代だったので、違和感が無く勤務できた事が今でも幸せに思っています。

退職する頃は空き地も殆ど無くなってしまいました。そのかわり当時は身の丈ぐらいたった樹木が堂々と天に聳え緑溢れるキャンパスとなっていました。

退職後もまた市の中心部にある大学にお世話になっていることは、初めて名古屋に出てきた頃を思い出し、気持ちも新たに新しい大学生諸君とともに、過ごす幸せをかみ締めています。

ただ、もうそんなに永くは働

めることは無理と思えますので、早く大学に溶け込み、教務課の皆様のおかげとならず、席にいても違和感の無いように出来る

斉藤 政義 (就職課課長)



縁あってこの4月から、本学就職課長としてお世話になることになりました。少子化・高齢化に拍車がかかっている現代、優秀な保育者・介護福祉士の必要性がますます高まっています。

こうした中であって、大学経営の流れを見ると、保育系の学部・学科の新設ラッシュが続いており、保育系の就職は決して楽観視できるものではなく、むしろ大変厳しい状況を迎えているのだと考えざるを得ません。過去37年間、義務教育に携わってきた経験も生かし、一人でも多くの優れた人材を社会に送り出せるよう頑張りたいと思います。

西尾 朋子 (教務課課員)



柳城で勤務を始めて2年が過ぎようとしています。柳城に初めて来たときに驚いたのが、学生の皆さんの礼儀正しきでした。当たり前前のことかもしれませんが、

柳城の皆さんは「挨拶」をしてくれました。以前、勤めていた大学では、「挨拶」をする学生に会ったことはほとんどありませんでした。校風の違いなのかもしれません

が、「挨拶」ひとつで学校の雰囲気が良い感じました。保育士という将来の夢を持ち、その夢に向かって頑張っている皆さんだからこそ、何気ない「挨拶」で周囲の人々を喜ばせることができ

附属幼稚園

鈴木はる美 (附属豊田幼稚園園長)



私は不思議な導きで豊田幼稚園に越任いたしました。不慣れな私を多くの人達が温かく迎え支えてくださっています。ここへ招いてくださった神に感謝し、子どもが豊かな心に育つよう職員と共に愛をもって働きます。よろしく願いいたします。

法人

加藤 実治

(法人事務局 職員)



昨年度から法人事務局で、主に、附属幼稚園の経理を担当しています。がさつな男ですが、これでもクリスマスチャンなので、ご挨拶に代えて聖書の言葉を記します。「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる(ルカ 18・14)。」

本学院が、創設者ヤング宣教師のみ心になつた場所になるように励みます。「求めなさい。そうすれば、与えられる(ルカ 11・9)。」

保護者会

保護者会会長 森本 啓子



まだ娘が小学生だった頃、小さな子と遊ぶことが好き

で、「保母さんになりたい。」と将来の夢を他愛もなく口にしていました。「保育士」という、その夢は、大学進学を前にした10年後も変わることなく、昨年この名古屋柳城短大に入学しました。

夢を実現し保育者になる娘を想像しつつ、またプロセスの中で挫折感を味わうのではないかと不安の持ちながら、親として娘を応援してきました。そんな親の心配を余所に、娘は毎日忙しく、楽しそうに様々なことを学びながら、充実した学生生活を送っています

同じ夢を持つクラスメイトと苦しみも喜びも共感し合い、指導いただいている先生方に支えられ

ながら、力強く成長していく姿を頼もしく見つめています。

保育の現場である幼稚園、保育園で即座に対応できる保育者を育てることを目指し、知識だけでなく、実際に生かす技術の指導のための実習を重要視されている教育方針は、夢を現実のものとしていこうと努力している学生たちにとって大きな力となっています。

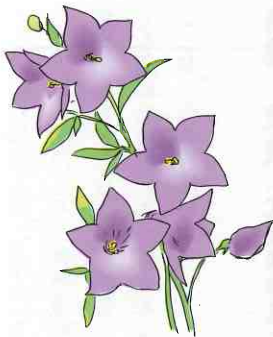
本年度、保護者会会長の任をいただき、大学の先生、職員の方々への感謝の気持ちを保護者会として微力とは存じますが、形にし、お役に立てればと考えております

柳城の建学の精神である、信仰を基礎にして豊かな教養、優れた知性、高い技術を備え、愛の精神を身につけた人格の育成を目指し、保護者として少しでも力になればと思っております。会員の皆様方のご協力とご支援をよろしく願います。

保護者会役員

会長 森本 啓子
副会長 山田 り子
会計監査委員 浅川 睦美

委員 大脇 泉
高島 由美子
中村 昌江
橋本 みゆき
黒田 緑
高木 みさ枝
牧山 美佐代
芝原 真由美
村瀬 まゆみ
西谷 司
村瀬 美智代
大槻 正美
坪井 文代
眞浦 重雄
梅田 康子
加藤 洋子
杉浦 節子
増田 恵子



同窓会だより

のぞみの会 軽部 倫子



4月から柳城という学園を巣立ち職場での子ども達の

先生となられた皆さんお元気で御活躍でしょうか？それとも保育職場での色々な問題にぶつかり楽しい中にも悪戦苦闘をしていらっしゃる方もおられますでしょうか？柳城での学問的なキリスト教保育をいざ実践しようとする、とても生易しいものではなかったと同窓会の新人先生達が「同窓会だより」に感想を寄せて下さっています。でも誰方も「子ども達と共に生活できる楽しさ、子ども達のエネルギーが頂ける職場がうれしい」と保育者としての喜びと誇りを語って居られる事も確かです。日本の今の「少子化問題」と一言だけで片づけるにはあまりにも多くの問題が幼稚園、保育園等幼児教育の現場で起っています。幼子が本来の幼子らしい生活が出来るには柳城で学んだ事

を生かしつつ私達はどんな心でどんな準備をしてどんな風に毎日を通して行けばいいのでしょうか！私達保育者の人間性も問われる様な事もあります。今も全国各地で同窓生達は夫々の現場で使命感を持って働いていらっしゃいます。どうぞ柳城生の皆さん卒業生の皆さん同じ志を持って幼子達と共に在る保育者としてあらゆる機会にお会いし合い、その思いを願いを分かち合いましょう。そして本来ある幼子達の為小さな力でも惜しみなく出し合い励み合いましょ。その事は多分神様が私達一人一人に下さるお恵みとして私達一人一人の成長につながって行く事でしょう！心から皆さんにエールをお送りします。来る11月3日(土)柳城祭の日「ホームカミングデイ」として新しく改装された名古屋聖マタイ教会で卒業生の集まりの日を持ちます。のぞみの会役員こそってお待ちしています。どうぞ多くの方々と良き交わりができますように。どうぞこの日が柳城生達にとっても実り多き日になりますように心からお祈り申し上げます。

附属幼稚園 便り

柳城幼稚園

園長 中野 早苗

『楽しかった、お泊り保育』

7月26、27日25名の年長児たちは、幼稚園で泊まる「お泊り保育」を体験しました。泊まる前日まで「夜、寝れなかったらどうしよう?」「ずっと起きていたらいいんじゃない」等、子どもたちの楽しい会話がたくさん聞こえてきました。一日目は、皆で励ましあいながら、テレビ塔を階段で登りました。夕方は、友だちと肩を寄せ合って園の小さな風呂に入り、夜は園庭でのキャンプファイアー、ゲーム、花火等、星空を見上げ、



左から 中野早苗、山田祥子、田中由紀恵、酒泉裕美、川村佳子

いつもと違う夜の幼稚園に、どの子も興奮気味でした。

二日目は、力いっぱい、スイカ割りを楽しみました。

普段は家庭でお母さんの手がゆきとどいていて、お手伝いの機会も少ない子どもたちです。このお泊り保育では、持ち物の準備も、お母さんがしてしまいうのではなく、カードを用いて親子一緒に楽しみながらできるように担任が工夫しました。お布団、食事、食器等の準備から片付けまで、お友だちと協力して行なうことが出来ました。帰りには、一人ひとりに、お泊り保育の表彰状が手渡され、子どもたちの表情は、自信に満ち、輝いていました。皆で感動を味わい、喜びを分かち合うことが出来た貴重な二日間でした。

豊田幼稚園

園長 鈴木はる美

『水遊び』

夏が来ると毎日子ども達が水

で遊ぶにぎやかで楽しそうな声が幼稚園に響きます。今年には各学年の子ども全員での水遊びを一緒にやりました。広い園庭に

色々な大きさのプールを用意して、水の輪くぐりやワニさんごっこをしたり、温泉のようにアワ

アワにして遊び、楽しみました。水鉄砲あそびでは、和紙に魚や

先生の顔やおぼけのかおを描いて木々にぶら下げ、子ども達が

自由に水をかけて大はしゃぎでした。その後は、「すいかわり」

です。「せんせー、もっとあっち!」「ちがう!みぎ!」「そこ!」

と大騒ぎ。すいかが割れた後はそのすいかを、みんなで食べま

した。そのおいしかったこと!夏と水とすいかと友だちの想い

出は、子ども達の心にいつまでも残ることでしょう。自然に恵

まれた幼稚園の園庭で楽しそう



上段左から 松浦かおり、栗田彩子、太田久貴、小野田陽子
下段左から 竹岡良子、高見真由、鈴木はる美、前崎初子、山本麻美

な子どもたちの声を聞きながら、青空を見上げたとき、そこに神様を感じました。

三好丘聖マーガレット幼稚園

園長 平松ちづ代

『楽しい夏』

夏は、子ども達にとって、とても楽しい季節です。プールでの水遊び、キャンプファイヤ、

川遊び、夕涼み会の盆踊り等:園では、楽しい行事が続きます。

それに加え、園庭では日々小さな楽しみを見つけて、生活しています。「バッタを取りに行こう」と、草原に走っていく子

ども達、手で捕まえるのがとても上手になりました。トカゲの

ケースに葉っぱについた青虫を入れたら、ながい舌を出して食べ

ちゃった!子ども達は小さな声で「アッ!」。テレビの映像

ではなく、実際に観察しました。砂場の棚に突ったぶどうを見上

げ、「取って」と子ども達。お皿に載せたぶどうに小さな手が

次々に伸びます。年少さんも勇気を奮って手を伸ばしています。

こんな中から、「こんどは小さ

い子にね!」という年長の声が聞かれます。子どもの成長発達を促す生活体験を広げるもっとも大切なものは、遊びです。社会性を養い、生きる知恵と力を育てます。

園の子ども達は、神さまの守りのうちに日々いろいろなことを体験しながら、すこやかに成長しています。神様に感謝。



上段左から 荒川真希、野々山実奈、吉田優子、池田奈緒子、吉永有芽
下段左から 林知子、林ひとみ、平松ちづ代、南川たか子

幼稚園 2008年度園児募集

入園説明会 説明会時間: 10:00~11:00

柳城幼稚園 9月22日(土)

豊田幼稚園 9月15日(土)

三好丘聖マーガレット幼稚園 9月15日(土)

幼稚園見学 随時受け付けています。

お問い合わせ先

柳城幼稚園 052-951-5080

豊田幼稚園 0565-80-0198

三好丘聖マーガレット幼稚園 0561-36-8373

2006 年度会計報告

資金収支の状況

(単位千円)

	科目	2005 年度	2006 年度
収入の部	学生生徒納付金収入	590,829	566,531
	手数料収入	11,640	12,939
	寄付金収入	5,757	6,012
	補助金収入	149,363	163,549
	資金運用収入	957	1,443
	事業収入	20,485	21,953
	雑収入	4,468	24,718
	前受金収入	124,545	144,083
	その他の収入	8,208	3,909
	資金収入調整勘定	△140,309	△155,625
	前年度繰越支払資金	945,659	1,035,818
	収入の部合計	1,721,602	1,825,330
	支出の部	科目	2005 決算
人件費支出		399,096	440,636
教育研究経費支出		145,956	141,076
管理経費支出		29,558	37,137
借入金利息支出		9,350	6,416
借入金返済支出		73,709	89,286
施設関係支出		4,935	14,277
設備関係支出		19,419	10,912
資産運用支出		3,001	1,512
その他支出		10,056	10,394
資金支出調整勘定		△ 9,296	△ 10,815
次年度繰越支払資金		1,035,818	1,084,499
支出の部 合計		1,721,602	1,825,330

消費収支の状況

(単位千円)

	科目	2005 年度	2006 年度	
消費収入の部	学生生徒納付金	590,829	566,531	
	手数料	11,640	12,939	
	寄付金	6,195	7,559	
	補助金	149,363	163,549	
	資金運用収入	957	1,443	
	事業収入	20,485	21,953	
	雑収入	8,525	24,732	
	帰属収入合計	787,994	798,706	
	基本金組入額	△12,460	△94,024	
	消費収入合計	775,534	704,682	
	消費支出の部	人件費	396,528	432,333
		教育研究経費	213,271	205,900
		管理経費	30,238	37,955
借入金利息		9,350	6,416	
資産処分差額等		1,907	690	
支出合計		651,294	683,294	
当年度消費収支差額	124,240	21,388		
前年度繰越	△563,863	△434,503		
基本金取り崩額	5,120	0		
翌年度繰越	△434,503	△413,115		

貸借対照表の推移

(単位千円)

	2005	2006	
資産の部	固定資産	1,882,431	1,844,315
	流動資産	1,040,610	1,117,328
	(内、預金)	(1,035,818)	(1,084,499)
	資産合計	2,923,041	2,961,643
負債の部	固定負債	462,905	371,638
	(内、借入金)	(290,773)	(207,810)
	流動負債	171,484	185,940
	負債合計	634,389	557,578
資本の部	基本金	2,723,155	2,817,179
	消費収支差額	△434,503	△413,114
	資本合計	2,288,652	2,404,065

2006 年度研究紀要

論文

保育とはどのような営みを目指すのか — 保育原理、科学的態度、人間の存在のあり方との関連で —	永見 勇
シューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」(3) — 歌手とピアニストの為の演奏と解釈 —	野々垣 文成
児童養護施設における職員資質の向上への取り組み「第二報」 — 児童養護施設における福祉の人材育成 —	飯田 和也 横川 聖也 藤田 哲也 成田 朋子 尾上 明子 中根 淳子 村田 康常
子どもの現状と次世代育成について 保育者養成における生と死の授業	奥 美佐子 髪 久美子 種 市淳子
学童期の描画における模倣の意味 — 描画の発達段階から探る —	奥 美佐子
保育のなかの紙芝居 — 倉橋惣三と「紙芝居」の関わりを中心に —	髪 久美子 種 市淳子
保育実践における子どもの発達と保育者の能力についての一考察 — 折り紙「柿」を通して —	長根 利紀代
幼児の身体活動性を高める要因の検討	鈴木 裕子
中国における障害児教育に関する一考察(2) — 四川省の障害児教育と随班就読の現状 —	萩原 はるみ
小規模校における情報教育環境の構築と管理 — 本学を事例として —	市原 信太郎 小平 英志
新制度下の学生に対する情報教育とコンピュータ不安 — パソコンの所有・使用状況と大学生生活不安による検討を交えて —	小平 英志 市原 信太郎
福祉自治体における社会福祉財政の構造 — 老人福祉費の分析を中心として —	長谷中 崇志
音楽活動 — 学生の記述から保育につながる音楽を探る —	安藤 昌和 飯田 和也

報告

アメリカにおける幼児教育・保育 — UCLA Early Care and Education への訪問 —	鈴木 裕子
名古屋柳城短期大学フォーラム 「紙芝居の魅力と演じ方」	

2006 年度決算を振り返って

- ① 収支の状況
- 2006 年度の収支の状況は、帰属収支差額 115,412 千円、消費収支差額 21,388 千円を計上し、引き続き安定した状況で推移しています。教育研究経費はほぼ前年度並みを計上し、教育研究費比率も 25.8%と例年通りの水準を維持しています。
- 投資面では、短大のマルチメディア教室・自習室の機器整備等(パソコン更新等)を実施しました。
- ② 財産の状況
- 上記の収支状況を受けて、バランスシートもかなり改善されました。2006 年度末の総資産は減価償却の進捗により 2,961,643 千円と微増に止まりましたが、自己資本は 2,404,065 千円に増加し、自己資本比率は目標としていた 80%に到達いたしました。資産の構成比率では、将来の投資負担に耐えるため流動性の比率を高くしております。

平成18年度私立大学教育研究高度化推進特別補助(教育・学習方法等の改善)に5課題が採択されました。

情報リテラシーを涵養する学習環境の整備

(取組状況)

初年度は、自習室の半数のPCを更新し、カラープリンタを一部導入した。本年度は、以下のような環境整備を行った。

- ①OS環境などが元で実用に耐えなかった機材を一新すべく、自習室の残りのPCについてもWindows XPが動作する最新の機材に更新した。
- ②自習室の全PCについて、ネットワーク管理支援ソフトやオフィスソフトを最新バージョンに更新を行った。
- ③耐用年数に達していたプリンタ類を全機更新し、出力環境についても整備を行った。
- ④次年度更新予定のディスプレイについても一部本年度に前倒しして更新を行い、利用環境の向上に配慮した。
- ⑤マルチメディア教室については、ネットワーク管理支援ソフトと合わせ授業支援ソフトを全機に導入した。

(成果)

自習室の全機材が実用に耐える充実した状況となったことから、学生の自習室利用頻度が格段に向上した。この結果として、授業でレポート等の課題を出した際、これまでであれば手書きにしていた学生がワープロ等を利用して執筆するようになり、内容についても種々の資料を電子的に引用するなどの工夫が見られるようになった。また、出力環境を整えたことにより、単なるレポートの印刷を超えた利用として、保育教材をカラープリンタで印刷するなども行われている。

マルチメディア教室にて授業支援ソフトを導入した効果としては、授業中に課題に関わるファイルや学生に配布し、それを用いた自習結果を次の授業に用いるというような授業が行われるようになった。また、ブックマークの配布や、学生のサーチエンジン検索機能においてモニターすることが可能となったことにより、インターネット利用についての授業の品質が向上した。これは自習時間の有効な活用につながっている。

以上、当初企図した「授業と授業外の自習との有機的な連携を図る」というねらいは、徐々にではあるが確実に達成されつつあると総括する。

図書館の開館時間延長と情報支援サービスの充実

(取組状況)

本事業は、保育・福祉の専門職を養成する密集したカリキュラムの中で、図書館の利用時間が限られていた学生に対し、適切な学習機会を提供することを目的として、夜間、休日の開館時間延長とサービスの充実をはかるものである。

平成18年度は、午後8時までの夜間開館を継続して実施した。実施体制は、派遣職員の名がシフト制で対応し、専任職員が補佐するとともに、警備員が定期的に巡回し安全管理を行った。

また夜間開館時のサービス充実をはかるために、(1)利用案内・指導、(2)情報提供、(3)の個別援助サービス(レファレンスサービス)における個別アプローチに重点をおいた。レファレンス業務の部内研修を定期的に行き、職員間の情報交換とスキルアップをはかった。その成果は、レファレンス事例集として図書館ホームページ上で一般公開に至っている。

平成19年度は、さらにサービスを拡大し、休日の試行開館を開始した。午17時の休日特別開館日と設け、午前9時より午後5時までの開館を行っている。

(成果)

平成18年度の学生1人あたりの年間貸出数は、短期大学平均の約3倍にあたる22冊となったほか、夜間開館時の利用者数も年々増加傾向にある。さらに、在学生だけでなく卒業生の利用も定着してきており、平成18年度では全貸出回数6.1%(貸出16回に1冊)が卒業生によるものであった。

また、平成18年1月に保育科1・2年生(321名)を対象に実施された「学生生活満足度調査」においても、図書館の「設備・環境」「スタッフの対応」については、5段階評価による全学生の平均が4.51・4.61と高い評価を得ている。

本学の図書館のサービスは、利用の中心を学生におき、学生が利用しやすいこと、学生のニーズに応えることを基本理念としており、本事業も小規模ながら最大限のサービスを提供することをめざした取組の一つである。学生の活発な利用状況と高い満足度は、本事業を含めた、図書館運営の成果であると判断される。

保育者養成におけるマルチメディア教材の開発と活用(「リアリティのある教育」を目指して)

(取組状況)

本校では2年間で幼稚園教諭と保育士の免許を取得することを原則としており、カリキュラムには多様な学習内容が盛り込まれている。このような現状で、授業内容の吸収効率を高め、保育者としての質をさらに高めることが重要な課題である。昨年度より、マルチメディア教材をこれまで以上に活用し、授業の「リアリティ」を高める試みを行ったこととした。現在、情報ネットワーク委員会の教員3名、事務員1名が中心となり、主にマルチメディア環境の整備と他の教員への啓発を行っている。将来に、幼稚園や保育所の環境設定、乳幼児の行動、幼稚園教諭や保育士の動きなどを、静止画だけでなく、動画や音声などを含めた教材として整備する予定である。それぞれの授業において、理論的な内容の紹介と、その実例としての乳幼児の様子とを交互に提示することにより、教育内容がよりリアリティのあるものとなることを目指している。初年度である昨年度は、従来から不足していた投影機器等を購入した。特に学生への情報伝達手段に関する整備を進めたこととなる。今年度は教材作成環境を整え、積極的にマルチメディア教材を学生に発信していけるよう取り組んでいく。

(成果)

昨年度は、講義室のマルチメディア環境の整備を進めた。投影機器等を購入し、資料提示を用いた授業を、多くの講義室で行うことが可能になった。また計画の初期段階であり、目に見える成果については、きりりと明言はできないものの、少なくとも左記のような成果は得られたと考えている。

第一に、大学のマルチメディア教育に対するレディネスが整いつつあるという点である。本年度には、マルチメディア教材作成のため、映像処理に耐えるハードウェアの購入および映像・画像処理のためのソフトウェアの購入を予定していたが、作成された教材を学生に伝えるメディア環境が、昨年度の整備により改善されたのは確かである。第二に、情報機器に対する教員の関心が徐々に高まりつつある点である。従来は、使えが者だけが使おうという状況であったが、情報機器が身近なものに変わることによって、誰もが使え、また使おうとする意識が少しずつ形成されてきているようである。マルチメディア教材とまではいかないものの、授業で映像等を用いる教員は増えつつあり、保育者養成におけるマルチメディア教材の積極的活用に向けて今後も環境整備を進めていく予定である。

保育者養成を支えるアドバイザー制度の拡充(「建学の精神から導き出された人間教育の展開」)

(取組状況)

本課題の「アドバイザー制度」は、保育者養成を主とする名古屋柳城短期大学の建学の精神「愛を持って互いに仕えなさい」のもと、「共存感覚」と「社会感覚」をバランスよく体得させ、学生の人間の成長を支える目的を持って、全教員がアドバイザーとして学生支援に当たる制度である。長年に渡って改善を積み重ねている。現在のアドバイザー制度は、各学年の教育目標やニーズに沿った制度を採っている。1年次では、200名を4クラスに分け、クラス運営の支援を中心に、1クラス3〜4名の教員が個々の学生をアドバイザーとして担当している。2年次では、総合演習を軸として、通称「ゼミ」子」という形式によるシステムをすることで、学生がアドバイザーとしての役割を果たしている。2006年度の取組は、解決課題「1年次システム」の工夫とアドバイザー教員のカウンセリング能力の向上として、外部講師を招いた教職員合同研修会を行ったことと、各教職員の抱える悩みが共有され、学生に関する情報収集や情報交換が促進された。入学して早期に退学を考える学生への対応が新たな課題として見出され対応策が講じられ、今年度には実施に移され一定の成果が得られている。

(成果)

解決課題「1年次システム」の工夫とアドバイザー教員のカウンセリング能力の向上では、外部講師を招いた教職員合同研修会を行ったことと、各教職員の抱える悩みが共有され、学生に関する情報収集や情報交換が促進された。入学して早期に退学を考える学生への対応が新たな課題として見出され対応策が講じられ、今年度には実施に移され一定の成果が得られている。

拡充課題「自己理解と自己肯定感を高める関わり」のモデルづくりでは、学生が携帯する「私とアドバイザーハンドブック」を作成し活用を開始した。作成時には、学生への「学生生活満足度調査」を実施し現状や課題を把握し、「私」を記録する欄や、アドバイザーとの交流日記などを盛り込むことで、学生1人ひとりが自分の生活を見つめ直し、自己理解を図りながら目標を修正していく意欲が高められるように工夫がされた。「先輩のつづき」や「柳城知く」の記事を募集し、柳城ならではのコンテンツが多く盛り込まれ、学生のほとんどが携帯し、いろいろな場面で活用している様子が伺われる。

学生が創る「りゅうじょう子どもフェスタ」

(取組状況)

「りゅうじょう子どもフェスタ」は、子ども理解に基づく総合的な実践力を習得させることを目標にした「保育内容指導演法・実践研究」の受講者(2年90名)の最終発表の場として設定されている。子どもたちの創造力を育むために、学生自らが創作し、表現者となり、柔軟で均整の取れた保育観に根ざした感性豊かな保育者を育成することをねらいとしている。

2006年度第3回「りゅうじょう子どもフェスタ」は、2007年2月12日(月)本学体育館にて開催された。これまでの1回公演から、午前、午後の2回公演となり、地域の子どもたちをはじめとして、送迎バス利用の申し込みも増え、約700名の観客を迎えて行われた。出演者である受講生以外にも、託児または案内など当日の会場スタッフとして、1・2年生学生40名余りがそれぞれの役割を担って参加している。

相談スタッフとして本学教員が対応する同時開催の「子育ておしゃべりサロン」は当日の申し込みだけでなく、事前の予約もあり恒例の行事として定着してきた。

高校生対象の「入学前教育」の一環としても位置づけられ、観賞後、グループ討議などが行われ、本学への学修意欲を高める機会となった。

(成果)

「りゅうじょう子どもフェスタ」での学生による発表発表(劇・人形劇・ミュージカル・ダンス・楽器演奏)は、オリジナル作品の質の高さ、よく練られた構成と磨かれた表現技術に対して高い評価が得られている。

学生は一連の活動を通して、作品をつくる創造性や表現技術を培い、行事運営の段取りをも習得している。協働でひとつのことを成し遂げる意義や、苦勞を感じるなかで、責任感、協調性、自主性、他者への思いやり、コミュニケーション能力など、保育者としての豊かな心を醸成させている姿が見られる。同時に、子どもたちを支える人材としての基礎的な視野を確立させる機会となった。

子どもを飽きさせず大人も楽しめるという評判から、園行事として参加を問い合わせる「子育ておしゃべりサロン」には、現職の保育者からの相談申し込みもあり、地域貢献とあわせて保育者養成校としての現職教育の役割も担える可能性が見出された。

紙芝居プロジェクト

実行委員長 髷橋久美子

紙芝居の情報センターに……

百年を超えて保育者養成に励んできた本学の独自性を、紙芝居の情報センターとして打ち出そうと、二〇〇五年四月に「子ども文化と紙芝居プロジェクト」を立ち上げました。昨年に引き続き、今年も「子どもゆめ基金」(国立青少年教育振興機構)の助成を受け、活動しています。

「紙芝居ネット」公開……

昨年、準備期間中から、世界初の保育紙芝居の情報発信サイトとして、新聞紙上やテレビにも取り上げられ、本学の広報にも一役買ってきた「紙芝居ネット」が、この四月から公開とな



りました。

昭和の街頭紙芝居の様子、貴重な紙芝居の上演、紙芝居の演じ方など、ご覧いただきましたでしょうか。本学の図書館に所蔵している紙芝居の目録情報も検索できます。お出かけ前にチェックしてからどうぞ。「紙芝居ネット」は、本学のホームページからはもちろんのこと、「紙芝居ネット」と打ち込んでいただければ検索できます。よりよいものを目指し、内容を更新していきます。どうぞ、ご活用ください。

フォーラム……

昨年は、紙芝居の演じ方をテーマにフォーラムを実施しました。右手和子先生の実演指導、大好評でした。今年は紙芝居の作り方についての企画です。紙芝居や絵本の作家、長野ヒデ子先生をお迎えし、十二月一日に電気文化会館で開催します。どうぞ、ご参加ください。

キッズ紙芝居募集……

ただいま(九月三〇日まで)子どもが作成した紙芝居を募集中です。審査のうえ、表彰し、作品を印刷するとともにネット上でもデジタル紙芝居として公

紙芝居プロジェクト ニュース

「子どもゆめ基金」のプログラムに選定

紙芝居フォーラムのご案内

日時 2007年12月1日(土)
13時～16時半
場所 電気文化会館
イベントホール

<プログラム>

対談「紙芝居の魅力」
講座「手づくり紙芝居を
楽しもう」

※入場無料(定員150名)

※申込・問合せは図書館まで



開します。詳しくは、「紙芝居ネット」をご覧ください。(図書館にお問い合わせください。結構です。)

紙芝居と保育の関わりを探る

二〇〇五年度には、紙芝居がどのようにして保育の中に取り入れられ、今日に至ったのか歴史を検討しました。二〇〇六年度は、倉橋惣三に焦点を当て、保育と紙芝居の関係を探ってみました。今年度は、福音紙芝居について研究中です。キリスト教主義教育を遂行してきた本学

ならではの課題であると考えて取り組んできたところ、今井よねの活動を戦後引き継いだ関屋友彦氏の存在が、浮かび上がってきました。彼は、聖公会信徒です。何か大きな力に導かれてくるかのような思いがしています。これらの研究は、「紙芝居ネット」充実に役立てています。詳しくは、『名古屋柳城短期大学研究紀要』各号をご覧ください。これからも、本プロジェクトの活動にご期待ください。

人事

短大採用

野崎 真琴(助教)
山田 則之(教務課長)
斉藤 政義(就職課長)
西尾 朋子(事務職員)

任命

髷橋久美子(学務部長)
飯田 和也(教授)

退職

水野 弘子(事務職員)

その他

内藤 公子(用務員)
教員組織改編により助教を准教授

採用

加藤 実治(事務職員)
昇任 渡辺 敏光(係長)

採用

鈴木はる美(豊田幼稚園長)
川村 佳子(柳城幼稚園)

採用

高見 真由(豊田幼稚園)
松浦かおり(豊田幼稚園)

異動

吉田 優子(三好幼稚園)
荒川 真希(三好幼稚園)
南川たか子(三好幼稚園)

退職

山本 麻美(豊田幼稚園)
前崎 初子(豊田幼稚園)
持田 千夏(豊田幼稚園)
高間 裕子(豊田幼稚園)
水野 美穂(豊田幼稚園)
土川 恵美(三好幼稚園)
益田 沙貴(三好幼稚園)

入試情報

二〇〇七年度入試結果

二〇〇七年度入試より定員を一五〇名から二〇〇名に変更いたしました。また、入試改革を行い、多様化を図ったこともあり、志願者は三三四名でした。結果二〇八名が入学をしました。

二〇〇八年度入試日程

今年度もA〇入学試験、二種類の推薦入学試験、一般入学試験、社会人入学試験など多様な入学試験を実施いたします。また、昨年から実施しています同窓生推薦入学試験では、本学を卒業されたみなさまのお子さま、または、在学生の兄弟姉妹を対象に入学試験も実施いたします。詳しくはお問い合わせください。

昨今、愛知県内の大学では、保育系の学科増設が頻繁に行われており、各大学とも定員確保に必死の状況です。幸い本学では、多くの受験生に恵まれており定員は確保できていますが、今後は、定員確保が厳しくなると思われるます。

願書受付 6月18日～29日
試験日 7月7日(土)

○第二回 一般入学試験
願書受付 1月28日～2月7日
試験日 2月16日(土)

〔専攻科介護福祉専攻〕
○推薦入学試験
願書受付 6月18日～29日
試験日 7月7日(土)

○第一回 一般入学試験
願書受付 11月19日～30日
試験日 12月8日(土)

○第二回 一般入学試験
願書受付 1月28日～2月7日
試験日 2月16日(土)

○第一回 社会人入学試験
願書受付 6月18日～29日
試験日 7月7日(土)

○第二回 社会人入学試験
願書受付 11月19日～30日
試験日 12月8日(土)

介護福祉専攻は、保育士資格をお持ちの方であればどなたでも受験可能です。本学では、国家試験免除で介護福祉士資格を取得することができます。数年後には国家試験が課されることが決まっています。今、少しでも興味のある方は、チャレンジしてみてください。

2006年度就職状況

本年度も就職率100パーセント
本年度は、保育科、専攻科保育専攻、専攻科介護福祉専攻を合わせて二二六名が卒業しました。そのうち一八五名が就職を希望し、全員が自分の希望する職種に就きました。

その中でも特筆すべきは、専門職(幼稚園、保育園、児童施設、老人施設)への就職率の高さです。本年度は九七・八%。毎年九五%以上の成果を上げていて、これは全国でもトップクラスです。

厳しさを増す就職環境

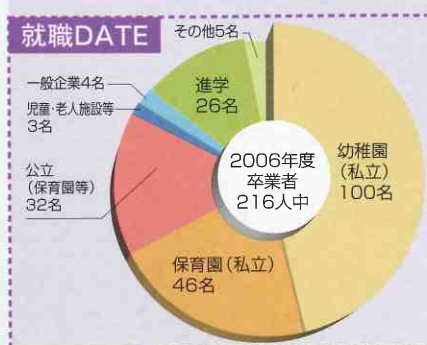
しかし愛知県内の保育系の就職は、今後大変厳しくなると予想されています。それは、保育系の大学や専門学校が増えてきているからです。愛知県内ではここ数年間で新しく十校の保育養成校が誕生し、現在三二校に なっています。それに伴い、卒業生も増加します。二〇〇三年度は二七四八名であったのが二〇〇七年度末には、約三二〇〇名の予定です。毎年三〇〇〇名を超す卒業生が、全員条件の良い専門職場へ就職することはとても困難です。

就職課では、本学の長い伝統と保育現場からの高い評価の上に立ち、保育者としてのマナー、

筆記試験、実技試験への対策、実技講座、公務員対策講座、きめ細やかな個別相談等々、就職支援にさらに力を注ぎ、柳城生全員のよりよい就職を目指したいと考えています。

	卒業者数(人)	就職希望者(人)	就職率(%)	進学者(人)	就職希望なし(人)
保育科	192	163	100	26	3
専攻科	保育専攻	6	5	0	1
	介護福祉専攻	18	17	100	1
計	216	185	100	26	5

(2007年3月31日現在)



インフォメーション

オープンキャンパス 学校見学 案内

柳城では、七月・九月にオープンキャンパスを実施しています。また、十一月の「柳城祭」では、推薦入試を前にして小論文対策講座を実施します。二月の「りゅうじょう子どもフェスタ」では、実践研究を履修している学生が、ミュージカル・人形劇・劇など自分たちで脚本・衣装・舞台装飾などを作成し披露します。このフェスタを見学し、その後個別相談のコーナーも設置します。

また、本学では、随時見学にも対応しています。

柳城のキャンパスには、大きな大学にはない雰囲気、明るさ、温かさ、元気な声、ピアノを奏でる音、そして笑顔があります。

各自の持つ夢を常に意識し、忙しい学生生活の中でも明るさを忘れず、楽しんでる姿を少しでも感じて、なかなか見ることのできないホントの柳城を感じ

てもらいたいと思っています。日祝以外は飛込みでの見学もOKです。気軽に遊びに来てください。土曜日の見学を希望される方は、事前にご連絡をください。

お問い合わせ先…入試広報課

クリスマス コンサート

今年のクリスマスコンサートは十二月十二日（水）の午後六時より名古屋市青少年文化センター・アートピアノホールにて開催いたします。キリスト教主義の学校ならではの行事です。第一部は本学音楽担当教員による演奏です。今年はリストの作品をお送りします。皆様方の耳馴



染みのある作品をピアノソロ、連弾、二台のピアノで演奏いたします。そしてあまり知られていないリストの歌曲もお送りいたします。ハンガリアンの響きをお楽しみください。第二部は学生によるハンドベル演奏とクリスマス音楽をお送りします。

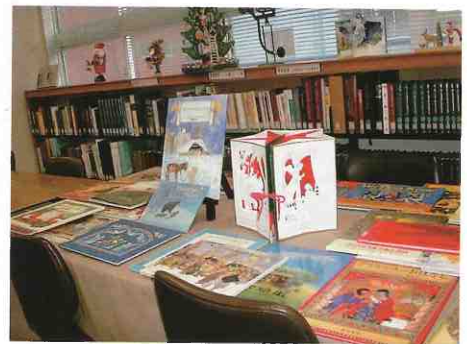
クリスマス音楽を十分に味わっていただけたらと、学生たちは汗を流しながら練習に励んでおります。卒業生の皆様、昔をなつかしんでご来場ください。又、多くのお知り合いの方々は是非お誘いして一緒にお楽しみください。一同でお待ち申し上げます。

ホールは栄・ナディアパーク・デザインセンタービル11階です。

お問い合わせ先…学長室

世界のクリスマス と絵本展

一〇月二十九日（月）～
十二月二十一日（金）
十二月二十一日（金）
本学図書館及び歴史資料室
世界中でお祝いされるクリスマス！クリスマスにまつわる素



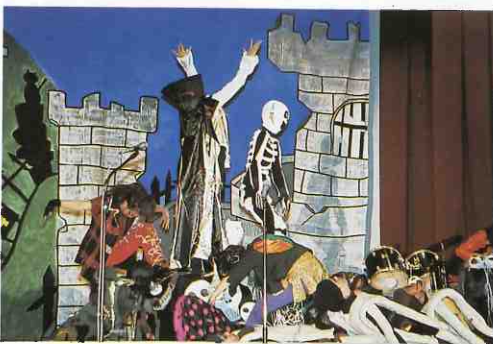
敵な絵本の数々、人形たちを展示します。心豊かなクリスマスをお迎えください！

お問い合わせ先…図書委員会
宗教委員会

りゅうじょう 子どもフェスタ

子どもたちへのメッセージがいっぱい！
今年度のりゅうじょう子どもフェスタは、二〇〇八年二月九日（土）に本学体育館にて開催します。

二〇〇七年二月十二日（祝）、第3回りゅうじょう子どもフェスタは、午前、午後と2度公演



を行いました。子どもたち、高校生、卒業生、学生の保護者などで満席の賑わいでした。すべてオリジナルにこだわり、大人も楽しめる完成度の高い劇、人形劇、ミュージカル、ダンス・楽器演奏。2時間近いプログラムでしたが、最後まで子どもたちのところをしっかりとつかんでいました。行事として来場していただく幼稚園・保育園もありました。本学教員による子育てや保育に関する相談コーナーにも事前の予約がありました。

今年度も、子どもたちのためのところのこもったフェスタになるように学生達が務めます。

お問い合わせ先…鈴木裕子研究室